

2019年度 山梨県総合教育センター研究大会（二次案内）

師走の候、各位におかれましては、ますます御健勝のことと拝察いたします。日頃より、本センターの事業について御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本センターは昨年度、創立70周年を迎え、山梨教育の「知の拠点」としてシンクタンク機能を充実し、学校教育を支援して参りました。

2019年度は、昨年度改革しました全指導主事がチームで行う「研究領域ごとの協同研究」をさらに推進し、学校の現状に即した今日的教育課題の解決とともに、授業改善を推進し、教職員の資質・能力の向上を図るべくセンター研究を進めてきました。

つきましては研究の充実・発展と交流を図ることを目的に、「2019年度山梨県総合教育センター研究大会」を次の通り実施いたします。御多用とは存じますが、多数の御参加をいただき、研究内容についての御意見、御示唆を賜りたく、御案内申し上げます。

—研究大会テーマ—

「やまなしの学び 新たな時代へ

～すべては目の前の子供たちのために～

1 期日 令和2年2月20日（木） 13：00～16：55

2 会場 山梨県総合教育センター（大研修室及び各研修室）

3 日程

（1）受付 12：40～ （大研修室前ホール）

（2）開催行事 13：00～13：15 （大研修室）

（3）特別講演 13：20～14：30 （大研修室）

演題 「言葉と教育」

山梨県立図書館長 金田一 秀穂 氏

（4）ポスター発表 14：45～15：30

（5）ラウンドテーブル 15：45～16：55

4 ポスター発表 14:45～15:30

今年度行われている本センターの研究（協同研究）についてポスター発表を行います。研究概要（次頁）・発表概要を参考に①から⑩の中から御覧になりたいものをお選びください。準備の都合上、FAXで申込み際に、希望する発表番号を三つ、記入してください。

5 ラウンドテーブル 15:45～16:55

連携・教育研究会の山梨大学アドバイザー及び本センター指導主事がファシリテーターとなり、ポスター発表のテーマを基に、校種を超えた小グループでの討議を行います。互いの教育活動・授業改善等での経験や実践を共有し、今後の教育活動に生かせる機会とします。本年度は、ポスター発表とラウンドテーブルを連動させます。お申込みいただいたポスター見学希望を考慮して、参加するグループをこちらで指定させていただきます。

6 その他

- (1) ポスター発表は、自由に移動して、複数箇所の発表をお聞きください。
- (2) ラウンドテーブルは、申込み時のポスター見学希望を考慮して、参加するグループをこちらで指定させていただきます。当日、受付で配付する資料で会場を御確認ください。
- (3) 当日の駐車場は満車になると思われます。できるだけ相乗りでお越しください。
- (4) 全館及び敷地内は禁煙です。西門付近での喫煙も御遠慮ください。
- (5) 当日、悪天候等への緊急対応については、センターHPにてお知らせします。

7 参加申込みについて

本案内で添付しました用紙にて、FAXで申し込んでください。
山梨県公立学校については、なるべく各校1名以上の御参加をお願いします。

ログイン

Chromeで閲覧の際に、アドレスバーに「保護されていません」と表示される場合がありますが、本サイトでは、個人情報の送信を求めることはありませんので、安全に閲覧できます。



山梨県総合教育センター

トップページ 総合案内 研修 調査・研究 授業支援 相談支援 学校・団体へのリンク

サービス

2019年度 山梨県総合教育センター研究大会

日時 令和2年2月20日(木) 13:00～16:55 (受付12:40～)
会場 山梨県総合教育センター
内容 1. 開催行事
2. 特別講演
演題 「言葉と教育」
講師 金田一秀穂氏 山梨県立図書館長 杏林大学教授
3. ポスター発表
4. ラウンドテーブル
*詳細は二次案内を御覧ください。
【二次案内はこちら チラシはこちら】

参加申込 令和元年12月20日(金)～令和2年1月30日(木)
本年度の申込み受付はFAXのみです。
【FAX用紙はこちら】

悪天候等のため、研究大会実施予定を変更する場合は、山梨県総合教育センターホームページ(トップページ)によりお知らせいたします。
降雪等で変更が予想される場合は当日の朝、必ず確認をお願いします。

参加申込みの受付期間

2019年12月20日(金)～
2020年1月30日(木)
FAXのみの受付となります

問い合わせ

山梨県総合教育センター 調査研究課
TEL: 055-262-6180
FAX: 055-262-5572

領域・グループ		研究メンバー	アドバイザー	研究主題 副主題
授業づくり・学校づくり	①小学校 「主体的・対話的で深い学び」に関する研究	笠井さゆり 平沼 公香 鶴田 心 後藤 由紀 河西 絵美 萩原 義晃	山梨大学 客員教授 小林 玲子 望月 栄一 教授 山本 英寿 饗場 宏 准教授 田中 一弘 総合教育センター 河住 悦久 佐藤 望	校内研究への支援の在り方 －校内研究の活性化を目指して－
	【研究概要】 校内研究への支援方法を提案することを目標とした。ニーズに応じた講師派遣、学力調査の分析結果を生かした授業改善の提案、作成物の活用から校内研究の活性化を図った。研究協力校と指導主事が継続して連携することで、教員の変容が見られたか検証する。			
	②中学校 「主体的・対話的で深い学び」に関する研究	小林千由紀 野崎 哲司 飯沼 久裕 富士池慎一 山田 睦子	山梨大学 特任教授 渡井 渡 客員教授 氏原 一宏 興水 清司 総合教育センター 笹本 忠彦	「主体的・対話的で深い学び」の視点で目的を明確にした授業づくり －言語活動を取り入れた授業づくりと学習を支える集団づくり－
	【研究概要】 研究仮説「校内研究会で、調査結果の分析に基づいた提言を生かした研究授業を行えば、学習集団づくりに教員全員が参画し、『主体的・対話的で深い学び』の視点で目的を明確にした授業改善が日常的に行われるであろう。」全教員による事前検討会を経た9本の研究授業と校内研ポートフォリオへの記述から検証する。			
③高等学校 「主体的・対話的で深い学び」に関する研究	大久保雅司 相川 恵子 橘田 浩 神宮寺 聡 小宮山 隆	山梨大学 客員教授 小川 巖 奥田 正治 総合教育センター 古郡 文春 篠原 茂樹	「主体的・対話的で深い学び」の推進 －生徒の自己肯定感を育む授業づくり・学校づくりを目指して－	
	【研究概要】 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進し、自己肯定感を育むことのできるような活動の在り方を研究する。生徒自身が主体的に授業や学校行事に参加しているという実感を得ることによって、自己肯定感の高まりにつながることを検証する。			
情報教育	④情報教育に関する研究	中島 浩三 中島 利秀 渡邊 英裕 饗場 浩 岡田 幸久	山梨大学 准教授 成田 雅博 客員教授 石丸 洋一 総合教育センター 小俣 義一	「ICT機器を活用した授業改善へ向けた支援」 －研究協力校の実態に応じた支援を通して－
	【研究概要】 研究協力校におけるICT機器の整備状況に応じた操作方法やICT機器の効果的な活用に関する学習会、教員を対象としたプログラミングの模擬授業の実施等の支援を行い、授業改善の一つの足掛かりとなる教員のICT活用指導力の向上を図り、その効果を検証する。			

領域・グループ		研究メンバー	アドバイザー	研究主題 副主題
教育相談	⑤教育相談に関する研究	佐野 和規 服部 有美 榛原砂穂理 小野 圭	山梨大学 准教授 川本 静香 客員教授 窪田 新治 総合教育センター 原田 孝雄	「学校におけるいじめ対応の在り方について」 － いじめ防止対策推進法とその定義に基づいて －
		【研究概要】 教師のいじめ対応についての3年目の研究。研究協力校の小中高3校の教職員に2回いじめ対応についての研修を行い、適切ないじめ対応ができるようになることを確認した。さらに、協力校3校の児童生徒対象に、いじめに対する意識を高める授業等を実施し、その効果を検証した。		
特別支援教育	⑥特別支援教育に関する研究	小田切一博 金谷 裕司 中野 恵子 芦沢 令子	山梨大学 准教授 吉井 勘人 猪股 真弥 総合教育センター 池谷佐知子	学習障害等のある児童生徒への支援の充実に関する研究 －アセスメント方法、指導方法及び教材教具のあり方について－
		【研究概要】 学習障害等に対する自立活動の指導を担当する通級指導教室担当者が早期に障害特性を把握し、その特性に応じた効果的な指導方法を確立できるように研究を進める。併せて、通級指導教室担当者の専門性及び指導力を向上するための研修のあり方についての研究を行い、検証した。		

領域・グループ		研究メンバー	発表概要
適応指導	⑦こすもす教室 (適応指導教室)	石和こすもす教室 清水 弘美 都留こすもす教室 石原 孝子	不登校児童生徒の再登校に向けての意欲や態度を養うことを主たる目的としている。適応指導教室(こすもす教室)の現状と、子供たち一人一人の自己肯定感や自己有用感を向上させ、社会的自立への力を身に付けることを目指している実践を発表する。
一般留学生	⑧小学校 国語 高学年	赤尾 若菜 (笛吹市立 八代小学校)	小学校国語科「やまなし」の実践を通して、物語を読み深め、考えを形成する手立てとして三角ロジックを取り入れた指導、目標と評価を児童と共有することにより学習意欲の向上を図ったループリックでの評価について、研究の成果と課題を発表する。
	⑨小学校 国語 低学年	野呂瀬陽子 (甲府市立 池田小学校)	小学校の説明文の学習で系統性を意識し、内容と形式の理解を表現に生かす実践を行った。「言葉による見方・考え方」が働くよう比べて読む活動と評価にOPPシートを取り入れた。自分の力で表現しようとする児童の育成を目指した研究の成果と課題を発表する。
特設ブース	⑩平成31年度全国学力・学習状況調査英語「話すこと」 (発表は1回のみ)	教育研究推進幹 笹本 忠彦	中学3年生を対象にした「英語：話すこと調査」の実際の問題を視聴し、授業改善の方向性を探る。「即興性、技能統合、小中連携等」をキーワードとした調査結果を踏まえ、本センターが目指す「研究と研修の一体化」の一端を発表する。